

平成14年11月15日発行

上智大学英語学科同窓会  
東京都千代田区紀尾井町7-1  
上智大学英語学科事務室気付**Sophia English Language Department Alumni Association****英語学科、上智大学の発展にサポートを**

上智大学学術交流担当副学長 笠島 準一 (昭和48年卒)

最初にこれまでのお礼を一言。4年間の英語学科長時代にSELDAの役員の方々をはじめ、世代を超えた卒業生、同窓生の方々に様々な活動に参加していただいたり、助言をいただきまして、ありがとうございました。英語学科、延いては上智大学の発展を思うからこそその親身な活動とご意見をして頂けたと感じ、感謝しています。

本年4月からは学術交流担当副学長を務めています。国内・国外の諸機関との交流を促進し、また大学院教育の充実を目指します。

これからは少子化の影響を受けて受験者が激減し、大学によっては存在の危機を迎えます。これまでは入学試験で大学が受験者を選んでいたのですが、これからは定員を満たさない大学が増えると、受験者が大学を選ぶ時代になります。上智は心配することはないと思いますが、少なくとも受験者にとって魅力のある大学でなければならず、現在の上智の特色に更に磨きをかける必要があります。

折りしも現在、上智大学は2013年の創立100周年に向けて世界に並び立つ個性輝く大学を目指す準備を着々と進めています。これは「上智大学教育・研究・キャンパス再興グランド・レイアウト」(昨年5月に発表)に基づくもので、上智大学のホームページ(<http://www.sophia.ac.jp>)でも見られます。意見・要望・提案等を広く募っていますので、是非訪れてみてください。あるいは直接大学に手紙等で意見を提出することもできます。

このグランド・レイアウトの象徴は新2号館(仮称)です。旧2号館(20年以上前には図書館があった館)の跡地に駐車場がありましたが、そこに地上17階、地下3階の新しいビルが建設されます。工事は既に始まっていて、竣工は2005年3月の予定です。1階の学生支援のための事務室から始まり、外国語学部の先生方の研究室も移転される計画です。

アジア文化副専攻でアンコール・ワットの研究をされた人も多いと思います。グランド・レイアウトでは上智大学の正式機関としてカンボジアに「アジア人材養成研究センター」の設立を検討し、実際に開設される運びとなっています。上智の特色を生かした一つの社会貢献で、Sophia Missionとも呼ばれています。

法科大学院、いわゆるLaw Schoolの設立も検討の結果、2004年を目指して設立準備中です。法学部以外の人も受け入れる実務型の大学院ですので、関心のある方は注目に値することでしょう。

創立100周年に向けての上智大学は積極的な取り組みをしています。しかし上智の高い評判は卒業生の方々に依存することは明らかなことです。学科としても、大学としても、更により学生を輩出できるよう努力しますので、卒業生の方々からのご支援・ご協力もよろしくお願い致します。

英語学科の教員はまだしばらく10号館に研究室を構えます。移転するまでに、思い出のある場所にどうぞ遊びに来てください。

☆オール・ソフィアンズ・デーで会いましょう —— 2003年度 SELDAA 総会&amp;懇親会のお知らせ ——

2003年度定例総会を、2003年5月25日(日)開催のオールソフィアンの集いにあわせて行なう予定です。  
なお、詳細は決まり次第、別途お知らせいたします。

&lt;SELDAホームページ&gt;

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~seldaa/>

# 『60歳からの挑戦』

佐々木 寛 (昭和34年卒)



【定年から面白い】とのタイトルで会社の先輩が本を出版したが、私も今、それを地で行っている。

まずは自己紹介から。卒業後、時事通信社に入り、地方部、外信部、厚生省記者クラブ、横浜支局、リマ特派員、帰国してまた外信部で記者歴15年、それから出版局に移り、世界週報編集部次長を12年、図書編集部、教育編集部各次長で、本や年鑑作りのほか、専門学校のガイドブックを作るための専門学校懇話会の事務局長代理を10年、出版局で合計22年、合わせて37年間勤めて定年となった。

その後も業務委託者として横浜総局に所属、横浜商品取引所の取材記者として現役のような顔をして頑張っている。それまでは内政関係、国際関係、専門学校の分野を担当したが、経済関係・商品関係は初めてで、あいさつ状には「60歳からの挑戦」と書いた。それからもう7年目に入り、同じ会社に通算43年間お世話になっている。生涯一記者として同じ職業を通せる幸せを味わっている。

ちなみに、時事通信社にはソフィアンが約50人いるが、英語学科卒は昭和48年卒の長浜孝行香港支局長、同53年卒の久保義人外経部次長ら5人がいる。

もともと定年前から中学、高校、大学の同窓会の幹事や、先祖の関係の「咸臨丸子孫の会」の代表幹事をしたり、日蘭学会会員、横須賀開国史研究会会員として幕末史の研究でも忙しい日を送っている。

この夏には横須賀開国史研究会の基礎講座で浦賀奉行所の機構や与力・同心の給与などを学ぶとともに、古文書を読む会にも7月から10月まで通っている。曾祖父の浜口興右衛門が浦賀奉行所の同心から、長崎海軍伝習所へ行き、与力に昇進、咸臨丸で日本人として初めて勝海舟、福沢諭吉らと太平洋を横断した一人だからである。浜口はその後、直参旗本にまで異例の抜擢で昇進している。

今年9月は江ノ電（藤沢一鎌倉）が開通して100年を迎えた。その初代社長・青木正太郎が私の祖父・青木甲子三の従兄弟で、江ノ電沿線新聞に「初代社長青木正太郎とその周辺」を寄稿した。町田市相原町にある青木本家には新選組局長の近藤勇が指南しにきた青木道場があり、「天然理心流青木道場とその周辺」という論文が新選組子孫の流れを汲む「三十一人会」の機関誌『幕末史研究』に掲載された。

また、ソフィアンのマスコミ関係者で組織する「マスコミ・ソフィア会」では常任幹事をしており、同会は今年4月、新聞ダイジェスト社から『まるごと国際ニュースがわかる本』を創立15周年記念で出版し、それを契機に主婦と生活社の雑誌『ひとり暮らしをとことん楽しむ』から取材を受け、11月号に国際関係の解説記事が掲載される。

昨年8月に咸臨丸子孫の会は16人でオランダへ「咸臨丸の生まれ故郷を訪ねる」旅をしたが、今年は函館の五稜郭や江差の開陽丸を研究する旅を10月に実施、忙しい日程を調整するのが大変だ。

# 『生活習慣病の学生と放蕩息子』

長縄 友明 (昭和39年卒)



昨年11月末に、37年余の人生のゴールデンタイムを捧げた松下電器産業を卒業しました。1975年に、それまで気持良く仕事をしていた海外事業部から法務部に異動を命じられ、口惜しくて泣く思いで新しい仕事を開始。それから25年の永きにわたり、争訟の防禦、ライセンス契約、M&A契約等の企業法務に従事することになるとは、当時想像もしませんでした。

アメリカのZenith社の日本の電子機器メーカーに対する反トラスト訴訟の防禦で始まった法務の仕事は、1983年からの6年余は、ブリュッセルでのECの競争法・通商法課題への対応に展開。1989年に帰国後は、国際M&A案件やバブルの破裂に伴う国内案件も担当。そして最後の2年余は、企業の社会貢献・文化支援の仕事でした。

昨年の夏休みに、在職中の寄稿論文や講義・講演記録を約400ページの本にまとめ、関西の3つの私大に送り、講師職の求職。今年4月から、関西大学の法学部でEC競争法、同経済学部で日米欧の独禁法を、大阪経済大学で国際企業法務を、社会奉仕のつもりで講義中です。

相当な時間をかけての講義の準備で、一昔前と較べて有難いのは、Web-linkで判例や法務情報にアクセスできることです。意気込んで講義に臨んだものの、「欠席が多い、遅刻が多い、質問がない、反応が乏しい、議論になかなか乗ってこない」という学生生活習慣病には、当初大いに失望しました。負けてはおれません。まず、上智での初授業(たしかエヴァレット師のご担当)に遅刻し鍵がかけられた教室に入れなかったことにヒントを得て、始業のベルが鳴り終わった時点で未出席の学生には出席カードを与えず欠席扱いすると宣言し実行しています。続いて、出席数や質疑・議論への参加に、テストでボーナス点を与える、テストはまとまったテーマが終わる毎に行う等も宣言し、学生生活習慣病の治療に孤軍奮闘中です。

学生は現金なもので、目に見える治癒のサインが出始めています。常習の遅刻学生が変身した時は、放蕩息子を迎えた父親の気持の一端を味わった感じでした。関西大学経済学部のわが受講生でトップの成績をあげたのが中国西安からの留学生であったこと、その留学生が前期の講義評価で、「講義が良く工夫されている」という評価をしてくれたことも、私の大きな慰めであり希望でもある今日この頃です。

企業を卒業し、時間的余裕があると思われたようで、4月から枚方カトリック教会(信者数約1,500名)の評議委員会会長に指名され、VSO (Voice, Sweat and Open) をモットーに諸課題に取り組んでいます。人恋しい年代、昔の知人の皆さん、京阪神奈にお越しの折はご一報ください。

tochinaganawa@ann.hi-ho.ne.jp

# 特別寄稿

今回特別にNissel先生にお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。



## The Star Moves On

Fr. John J. Nissel, S.J.

A few of my readers might have been present and still remember my final lecture, given at Sophia in January 1992. The title was "Follow Your Star."

I had followed my star from my hometown, Baltimore, to Sophia in 1959 and the star just stopped moving, twinkling down over the old St. Ignatius Church and the then small Sophia University until 1992. But suddenly the star began to come to life again. It clinked and clanked a bit and started to move. My star was moving and I had to follow along.

In case you didn't know, we, my star and I, ended up in *Kagoshima*, where the old mother sputtered and coughed to a wheezy stop. The star seemed pleased with itself, as it could look down at *Sakurajima* and the small islands south. I was happy to go along, and found a new home and new kind of work, which was not too strenuous for a man of my age.

What did I do? Well, teach English, of course. Many of the *Eigoka* ladies will be happy to hear that I was teaching classes of "all" girls. Ironic in a way. (I can imagine some of them smiling in happy glee.) I also had the opportunity to visit the *Amami* Islands and even *Okinawa*. The experiences were different but still the same. School, classes and meetings. The faces might be different, but the human problems were the same. My dog, Sam, and I spent a happy nine years together. Heaven, I am sure, will not be much different from *Kagoshima*.

But one morning the phone rang. It was my Jesuit superior. He wanted me to move to *Kobe* Catholic Church. After nine years. So be it. I was afraid I would leave my star behind, but it was obedient, too. So we said goodbye to the school and Sam, and journeyed to the city which had so recently rebuilt itself after a tragic earthquake. I spent one year there, doing an entirely kind of work, in a church with pews and no desks.

Yet you never know where your star will lead you. Since April 1st I have been back at S.J. House. The door is open from about 9 a.m. until 8 p.m. Stop in if you have time. I would love to see you smiling faces again. Mine has many more wrinkles, but I try to stay young at heart.

## 卒業生短信

9月上旬までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)  
また、皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

■昭和60年に卒業された皆様、SMPで御一緒した方々、お元気ですか。

卒業後、医師となり、北海道大学医学部腫瘍外科に勤務しておりましたが、7月から米国オハイオ州のCleveland Clinicに留学します。お近くにいらっしゃる方、こちらに来られる方、ご連絡いただければ嬉しいです。miyaz@gf7.so-net.ne.jp

宮崎 康政 (昭和62年卒)

■現在、まだ日本の商社で週2回、英語の翻訳(主に日→英)の仕事を続けております。

上智大学で学んだ英語の知識を活用して社会に貢献できる幸せを感じております。

大畑 (旧姓 中村) 久子 (昭和39年卒)

■ECCジュニアのホームティーチャーとして、小・中学生に英語を教え始めて、早くも12年がたち、小学生だった二人の娘達も大学生となりました。

一人でも多くの“英語好き”人間を育てるため、これからもガンバリマス!!

岩田 (旧姓 酒井) 清恵 (昭和51年卒)

■今年娘二人がそれぞれ女子大と獣医科を卒業し、ともに就職し、ひとりには結婚しました。片や老親たちが、ひとり介護、ひとり病気、そしてひとり昨年亡くなりました。娘たちには限りない希望と夢、片やどうしようもない時の流れと限りある命への諦めを感じています。

木村 康 (昭和45年卒)

■S39年卒後、波乱の人生を経て、当地英国で遂に還暦を迎えてショックしたり、60歳以上の女性に(男性は65歳)支給される交通機関「ただ乗りバス」を愉しんだりの今日この頃です。松永伍一という詩人が、「賞味期限なしの人生」という味わい深いエッセイの中で、91歳になる女優の北林谷栄さんが「たいさんぼくの木の下で」という芝居の千秋楽後に「来年は新しい芝居がしたいわ」と

いわれ、71歳の筆者はギャフンだったといった内容を書いておられました。ひたむきに一つの道を貫く生き様の凄さを見せつけられたと同時に、60歳の私などは若輩者と痛感した次第です。

竹中 (旧姓 福田) あつ子 (昭和39年卒)

■入る学部を間違えた後後悔する程英語嫌いだった私は、大学時代、日本文化の習い事に専念していました。卒業後は一人でヨーロッパ1年間の放浪の旅。卒業33年後の今は、アイデアで工夫しながら、中学修了程度の英語で日本文化を紹介する方法を指導する講座を開催するNPO活動をしています。仕掛け紙芝居の昔話、折り紙、俳句、地理、歴史、文字など、バラエティに富んだ内容を紹介する講座の受講生は、中学生から80代、英語レベルも初級から上級の幅広い層の人々です。企業の助成で、今年は学校や国際交流協会への出張講座もやっています。自国を知ることは、自分自身の再発見につながりました。英語をコミュニケーションの手段として捉えるようになってから、英語アレルギーもなくなりました。いつか英語力や年齢を問わずに誰でもが参加できる『英語で日本文化紹介コンテスト』を開催したいと楽しい夢を抱いています。http://www.stepjapan.org/

川田 (旧姓 木戸) 美穂子 (昭和44年卒)

※事務局より：一年前の会報No.33で、ウィリアム・エバレット(小山信夫)先生が長崎に移られたとお知らせしましたが、その後、また東京に戻られたとのこと。住所：〒177-0044 練馬区上石神井4-32-11 ロヨラハウス (03-3594-2184)

※訃報：英語学科で教鞭をとっておられたLex Byrne先生が、2002年3月28日に永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



ジミー・カーター元米大統領夫妻と小林康司さん

## 英語学科同窓会総会

小林 康司 (昭和34年卒)

今年もオール・ソフィアンズデーに行われた総会に参加した。何となく一抹の寂しさを感じた。何故だろう？ やはり、総会は総会らしくあって欲しいと願うからなのだ。50人に満たない会合は例会でしか有り得ないような気がするのだ。これ偏に我々が外国語学部英語学科を愛する所以であり、せめて100人くらいの華やかな「総会」にしたいものだ。

それでは、どうしたら良いのだろうか？ 幾つか私見を述べてみよう。英語学科同窓会名簿をめくると、優に100ページ以上ある。単純に考えても60人もいる1ページから、わずか1人ずつ出席しても大変なものだ。自分の経験からして、学年別なり、職業別なり何らかのジャンル別で実行委員を設けて、10人～20人の核になってもらう。夫々に責任を持って数人ずつ集めてもらう。実績あるだけに、夢ではないと思う。

また、毎月の例会と言えば堅苦しい感じになるかもしれないが、せめて、二月に一回の楽しい「交流会」をソフィアンズ・クラブなどで実施すれば、会そのものへのアプローチが身近になると信じる。殊に軽食を含む参加費を1,500円くらいにして、会員が交代で凡そ30分の貴重な体験談を話すと言うやり方ならば、行って聞いてみたくなると思う。

今や天下に名だたる英語学科だけあって、名簿を見るとSELDAAの仲間が、如何に多く国際的な役割を果たしているかが、よくわかる。同じ釜の飯を食っているのだ。“事実は小説よりも奇なり”を聞かないで人生をおくるのは勿体無いではないか。せっかくの機会があれば、話すほうも気安いし、出席者もeasy feelingで2時間くらいは過ごせるのではないか。更に、英語学科の現役学生達にも後輩のよしみで、参加費を500円くらいにして聴講して貰っても良いのではないか。

こうした交流会を継続して行く事が総会を「総会」らしくすると思う次第である。一段とprestigeを高めるに違いない。

\*英語学科同窓会 第2代会長      \*元NHKソフィア会責任者(記者)

# 同窓会の活性化について考える

SELDAA会長 石川 雅弥 (昭和40年卒)

現在の同窓会の主な活動は、毎月開催されている「SELDAAセミナー」、年2回発行されている会報誌と3年ごとに更新される同窓会名簿の発行です。その中の「女性セミナー」がSELDAAセミナーと改称されて約2年経過しました。名称変更の狙いは、主に女性の卒業生を対象に開催されていたセミナーを、もっと幅広く卒業生全体に広げようというものでした。所期の目的はそれなりに達成されたと思われませんが、開催日の制約もあって出席者が少ないのは致し方ないところでしょう。このセミナーは毎月ウィークデーの午前中にソフィアンズ・クラブで開催されていますが、もっと多くの方々が出席しやすいように夕刻の開催を検討したいと思いません（実際には、かなり先まで講師の予約が行われていますので、具体的な変更に関してはセミナーの世話役の方たちと相談することになります）。そして、セミナー終了後に飲食を共にし、卒業生の輪を広げながら自然発生的に新たなグループが結成されたり、同窓会の活動について新しいアイデアが提案されるような場を設けることができれば、と考えています。

また、もう一つの提案として、地方や海外在住の方については、多くの方々がそれぞれの地域の「ソフィア会」のメンバーになられていることから、地域ソフィア会に英語学科同窓会の「支部」的なグループを結成したらどうでしょうか。もちろん、企業ソフィア会やクラス会についても同じことが言えます。そして、それぞれの支部から近況報告として会報に寄稿していただき、できれば年一度開催される総会に出席していただくというような考えもあります。

会報誌の発行は同窓会活動の基本事業です。しかし、年2回発行される会報誌の原稿集めにも苦勞しているのが実情です。会員の方々の関心を促し、会報誌を充実させていくことが同窓会の活性化へのまず第一歩であると考えます。

何卒皆様のご協力をお願いいたします。

# SELDA セミナー

SELDAA セミナーは、毎月一回、水曜日10:30～12:00、ソフィアーズ・クラブで開催されております。今回は、2002年度前半に行われたセミナーについて、出席された方にご報告いただきました。

## これまでに開催されたセミナー

### ● 2002年4月24日(水)

小平(旧姓 今泉) さち子氏

(NHK放送文化研究所主任研究員、上智大学教育学科非常勤講師 昭和52年英語学科卒)

#### 『これからの子供とメディアを考える』

主としてテレビ番組の役割について、ビデオ資料を見ながら興味深い話を聞くことができた。身近で容易に接することができるテレビの子どもに及ぼす影響について、日本では論じ始められてはいるものの、あまりに野放しという現実を考えさせられた。また、よい番組が作られても本当に見て欲しい人は見ないという現実を思うと、学校教育の場で広く活用される事が望ましいと切に感じた。

(昭和46年卒 大島 茉莉子)

### ● 2002年 5月22日(水)

寺島萬里子氏 (内科医)

#### 『病癒えても——ハンセン病・強制隔離90年から人権回復へ』

川口市の診療所で地域医療に携わっていらした寺島先生が、ハンセン病患者の実態に触れたのは、1996年、70才退職記念の韓国旅行のことでした。

病気を正しく知って対処するだけではいけない。人間を差別することがあってはならないというお考えから、少しでも多くの人々に真実を伝えたいと彼等の写真をとり始められました。あわせて詩歌、絵画、囲碁などの分野ですばらしい才能を発揮している彼等の毅然とした生活ぶりをスライド交えながら話される先生は、とてもお若く、清々しく感じられました。

(昭和46年卒 松井 佳子)

### ● 2002年6月26日(水)

井上久美氏 (上智大学外国語学部英語学科教授)

#### 『広告から見たアメリカ文化』

朝からあいにくの雨でしたが、雨を吹き飛ばすようなテンポの良さで講義はスタートしました。先生は様々な広告を例に挙げながら、日米(日英)間の文化の違いを分かりやすく解説してくださいました。講義を聴くうち、いつしか学生の頃を思い出し、知的好奇心をかなりくすぐられました。ただひとつ残念だったのは、日仏比較文化のお話が始まったあたりで時間が来てしまったこと。井上先生、ぜひ講義の続編をお願いいたします!

(平成9年卒 渡辺 美里)



●2002年7月10日(水)

村井吉敬氏

(上智大学外国語学部アジア文化研究室教授)

『インドネシアにおけるイスラーム』

インドネシアの近況の捉え方についてのご講演を興味深く拝聴いたしました。

- 1) 世界一イスラーム人口の多い国であるがイスラーム人口比率には大きな地域差がある。例えばこの国に初めてイスラームが広まった西端アチェでは約98%を占めるが、西パプアイリアンジャヤ、また2002年5月に独立を果たした東チモールではキリスト教が圧倒的の優位、マルクでは半々に近い。そのいずれもが騒乱多発地区である。
- 2) 騒乱の原因には基本に貧困があり、石油、天然ガス、銅、合板、ヤシ油などの豊富な資源をめぐる外国大資本ぐるみの利権争いが政治と密着して各地区毎に捉える必要がある。
- 3) メディアに報道されない部分が何であるのかを考える必要がある。

最後にひとこと先生がおっしゃられた“平和学”ということばに、平和は社会科学として研究もされ勝ち取らねば得られないものだと考えさせられました。

山口葉子(美しが丘眼科院長)

**SELDAA セミナー 今後の予定**

●2002年10月23日(水)

蟹瀬 誠一氏 (ジャーナリスト)

『テレビと政治 ―今テレビ報道の裏側で起きていること―』

●2002年11月27日(水)

吉田 美枝氏 (戯曲翻訳家)

『「戯曲Pentecost」について』

●2002年12月11日(水)

谷口 由美子氏

(児童文学翻訳家、昭和47年英語学科卒)

『「あしながおじさん」を訳して』

●2003年1月22日(水)

岡田 仁孝氏 (上智大学比較文化研究所長)

『ケンブリッジ大とオックスフォード大でのサバティカル』

●2003年2月26日(水)

吉田 研作氏

(上智大学外国語学部英語学科教授、昭和47年英語学科卒)

『英語の早期教育』

※2003年3月および4月は未定

●2003年5月28日(水)

高 二三 (こ・い・さむ) 氏 (新幹社社長)

『在日について』

場所：ソフィアーズ・クラブ  
時間：10:30～12:00  
会費：3,000円/年(英語学科卒業生)  
5,000円/年(英語学科以外)  
500円/1回毎

\*事前の予約は不要です。当日直接会場にお越しください。

世話人：熊野 順子(昭和46年卒)

森本 佳子(昭和46年卒)

落合 彰子(会計)(昭和46年卒)

[2002年度定例総会報告]

2002年度SELDAA定例総会が、今年もオール・ソフィアンズ・デーにあわせて5月26日(日)正午より、上智大学1号館201教室において開催されました。冒頭、議長に蔵田實常任委員(昭和48年卒)、書記に池沢成実副会長(昭和48年卒)を選出しました。

[活動報告]

石川雅弥会長(昭和40年卒)は挨拶のなかで、SELDAAが創立20年目を迎えた現在、環境の変化、上智の改革などの外的要素の変化、また総会への出席者が例年少ないという状況の中で、SELDAA活動をどう行っていくか模索中であること、広く会員の意見を取り入れたいことを述べました。その後、前年度の活動報告に移りました。

- 1) 大日方聖信常任委員(昭和62年卒)より、前年度の全般的な活動報告について。
- 2) 佐藤誠一郎常任委員(昭和53年卒)より、会報編集について。新しい企画を募集中、の呼びかけ。
- 3) 安西徳子常任委員(昭和49年卒)より、SELDAAセミナーについて。世話役交代の報告。創立当時の英語の勉強からより広い話題になっているので、もっと多くの方にぜひ参加して欲しい、との呼びかけ。
- 4) 大日方常任委員から、2001年度決算報告について。ドイル先生最終講義の会報増刊があったため、予算オーバーの説明。また、質問に対し、3年に1度の名簿発行のため、名簿作成費を別会計積み立てにしていることの説明。

[2002年度の予算案]

SELDAAセミナーでより良い講師を招きたいので、増額、などの説明。ホームページ、名簿作成などに関する質問と審議の結果、2002年度予算案は満場一致で承認されました。

[その他]

笠島準一・上智大学学術交流担当副学長(前英語学科長、昭和48年卒)から、大学の改革の状況などの報告がありました。

また、総会参加者から、各卒業生クラス単位に誘い合っ、総会にもっと大勢の参加があるようにしたらどうか、SELDAAセミナーにしても、多彩な分野で活躍する卒業生を講師に起用しても良いのではないかの提案がありました。

2001年度 上智大学英語学科同窓会収支決算書

自2001年4月1日 至 2002年3月31日

収入額 23,061,438円  
支出額 4,124,552円  
次年度繰越金 18,936,886円

(単位：円)

	科目	予算	決算	備考
収入	1 繰越金	19,307,771	19,307,771	
	2 会費	2,000,000	3,751,000	
	3 受取利息	6,000	2,667	銀行普通預金・債権・郵便普通
	合 計	21,313,771	23,061,438	
支出	1 名簿作成積立金	600,000	600,000	
	2 会報費	2,700,000	2,899,017	会報No.32, No.33,臨時増刊号 (編集・印刷料 1,275,932(税込) 郵送料 1,480,831 発送料 142,254)
	3 SELDAAセミナー	250,000	250,000	
	4 交流促進費	200,000	25,200	
	5 総会費	100,000	54,815	資料作成費・懇親会
	6 会議費	150,000	50,500	常任委員会運営費
	7 事務処理費	250,000	245,020	文書代・通信費・振り込み手数料・消耗品費等
	8 予備費	17,063,771	0	
合 計	21,313,771	4,124,552		
			18,936,886	2002年度に繰越

2002年度 上智大学英語学科同窓会予算

自2000年4月1日 至 2001年3月31日

(単位：円)

	科目	予算	備考
収入	1 繰越金	18,936,886	2001年度より繰越
	2 会費	2,000,000	入会金を含む
	3 受取利息	2,000	普通預金・郵便貯金・債券
	合 計	20,938,886	
支出	1 名簿作成積立金	600,000	2003年度(2004年3月)発行予定
	2 会報費	2,800,000	会報34・35号分
	3 SELDAAセミナー	400,000	講師への謝礼・交通費、会議室利用料
	4 交流促進費	200,000	会員間交流事業等
	5 総会費	100,000	資料作成費・懇親会
	6 会議費	150,000	常任委員会
	7 事務処理費	300,000	文書代・通信費・振込手数料等・消耗品費
	8 予備費	16,388,886	
合 計	20,938,886		

2002年度繰越金内訳  
東京三菱銀行ワリトー 2,000,000円 上記の通り、相違ないことを認める  
郵便局普通預金 10,006,010円 2002年5月26日  
東京三菱銀行普通預金 6,903,809円 会計監査 井坂由美子(昭和47年卒)  
現金 27,067円 岩村玲子(昭和49年卒)  
18,936,886円

## 《同窓会からのお願い》

同窓会では、SELDAAの在り方とその活動について模索しています。その中には、インターネットを利用したネットワーク作りとか、過去に同窓会が実施した「SELNET」(卒業生の転職希望者と採用希望企業の登録制度)の見直しとか、最近の雇用情勢やその多様化を考慮したキャリア・デベロップメント・プログラム等がありますが決定には至っておりません。つきましては、同窓会の在り方やその活動について、広く皆様のご意見やご要望を募集いたします。同封の葉書にて同窓会事務局まで、または、e-mailにて [seldaa@mve.biglobe.ne.jp](mailto:seldaa@mve.biglobe.ne.jp) までお願いいたします。

### ■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください(英語学科同窓会事務局にお知らせいただいた場合、ソフィア会事務局にも通知しております)。

住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。

### ■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、会報に同封の葉書、あるいは、便箋等にご記入の上、同窓会事務局宛にお送りください(写真も大歓迎)。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局

FAX.03-3238-3910 E-mail:[seldaa@mve.biglobe.ne.jp](mailto:seldaa@mve.biglobe.ne.jp)

(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

### ■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金 : 1,000円  
一般会員 : 年会費 2,000円  
(できれば3年分まとめて)  
終身会員 : 一括払い 20,000円

### ■あなたの会費納入状況

封筒の宛名ラベルの右上をご覧ください。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

6,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。

SELDAA 常任委員 (2002年10月現在)

- 名誉会長 / Michael Milward (英語学科長)
- 会長 / 石川雅弥 (昭和40年卒)
- 副会長・事務局長 / 池沢成実 (昭和48年卒)
- 副会長 / 大日方聖信 (昭和62年卒)
- 会計 / 内藤恭子 (昭和55年卒)  
寺北ゆかり (昭和61年卒)
- 会報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
- SELDAAセミナー / 安西徳子 (昭和49年卒)
- 常任委員 / 蔵田 實 (昭和48年卒)  
増田 光 (昭和59年卒)  
東郷公德 (昭和62年卒)
- 監査 / 井坂由美子 (昭和47年卒)  
岩村玲子 (昭和49年卒)

# 上智大学交換留学生と フラットシェアしませんか？

(本学在學生、卒業生に限る)

上智大学に半年ないし1年間勉強しに来る交換留学生とフラットをシェアして下さる在學生、卒業生の方を募集します。今まで、ホームステイをさせて頂きださるファミリーだけ募集していましたが、この度、単身でお住まいの方で、フラットをシェアして下さる方の募集を始めることになりました。

2DK以上に一人でお住まいで一部屋空いている、その空いている部屋に留学生を住まわせてくださるというようなケースを想定しています。在學生の方には日本にいながらの異文化体験、また卒業生の方には卒業してから錆びつきかけた語学のブラッシュアップの機会にさせていただけるかと思えます。

ほぼ全員が比較文化学部で勉強するので、英語を話します。その他にドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、タガログ語等が母国語の學生もいます。日本語がかなりできる學生もいます(ご希望はできる限り配慮します)。

## [条件]

1. 上智大学の在學生、卒業生に限ります。
2. 掃除の分担、ゴミ出し、電話・パソコンの使用等、生活のルールについて、留学生と話し合っ、理解させることができる語学力が必要です。
3. 異なった文化、生活習慣を持つ留学生との生活は、いろいろな摩擦が生じます。めげずに共同生活していくタフさが必要です。

## [ご提供いただく部屋]

エアコン、勉強机、ベッド(布団でも可)がある6畳程度の独立した留学生用の部屋が必要。居間、食堂、台所、風呂・洗面所等は共同使用。(留学生のために食事を用意する必要はありません。留学生が自分の分を用意します。調理器具、食器、冷蔵庫、台所を使わせていただくことになります。)

## [通学時間]

お宅から上智大学市谷キャンパス(市谷駅から歩5分)まで60分以内。

## [受入期間]

以下のいずれか

- (1) 9月中旬から翌年1月末までの秋学期1学期間
- (2) 3月下旬から7月下旬までの春学期1学期間
- (3) 秋学期と春学期、ないしは春学期と秋学期の2学期間

## [支払金額]

月額5万円

(学生個室の照明・エアコンの電気代、共用のガス・電気・水道代、洗剤等共用の消耗品を含む。電話、食料品、飲物等、留学生個人の費用は留学生の負担。)

## [問い合わせ先]

ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

また、お引き受けいただける方には申込書をお送りしますので、下記まで電話でお申し出ください。

〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1

上智大学 学事部 国際交流課

Phone: 03(3238)3521 Fax: 03(3238)3554